

長寿医療研究開発費 平成 27 年度 総括研究報告（総合報告及び年度報告）

老化及び老年病に関する長期縦断疫学研究（NILS-LSA）の活用と追跡調査（25-22）

主任研究者 大塚礼

国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター

NILS-LSA 活用研究室 室長

研究要旨

3 年間全体について

国立長寿医療研究センターで平成9年から実施している「老化に関する長期縦断疫学研究（NILS-LSA）」（平成24年に第7次調査終了）の既存データを活用するために、本研究課題初年度（平成25年度）はNILS-LSA追跡調査として、平成9年から12年にかけて実施した第1次調査参加者の現在の健康状態（エンドポイント）を把握する郵送調査を実施した。平成26年度はこれらのデータを用い、高次生活機能の保持に影響する各種要因の探索的検討を行った。また平成26年から27年度にかけて、国立長寿医療研究センター職員を対象とし、NILS-LSA研究参加に対する受入体制を整え、NCバイオバンク事業へのNILS-LSA既存試料およびデータの預託を実施した。本研究期間に、50編の原著(in press 含む)、53編の総説、139回の学会発表（うち国際学会29回）、70回の講演会・セミナーにて研究成果を公表してきた。また一般向けの情報発信に努め、国立長寿医療研究センターのHPにおいて「すこやかな高齢期をめざして～ワンポイントアドバイス～」を開始した。随時、NILS-LSAからの老化・老年病予防に関する様々な研究成果を分かりやすく発信している（平成27年度末時点で20トピックス掲載）。

平成 27 年度について

NILS-LSA第1次調査参加者のうち生存者を対象として、バイオバンク事業への協力を問う同意把握を行った。1,100人以上から同意を得て、これら同意者については、全てのNILS-LSAに提供された試料（血液等）・情報をバイオバンクに預託し、バイオバンク事業での活用を促した。また既存データを活用した研究として、平成26年度までの解析結果を踏まえ、心身の健康関連要因や生活習慣の改善が高次生活機能を保持する可能性を見出した。

主任研究者

大塚 礼 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター

NILS-LSA 活用研究室 室長

（平成 25 年 4 月～平成 26 年 10 月、平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

鈴木隆雄 国立長寿医療研究センター 研究所 所長

（平成 26 年 11 月～平成 27 年 3 月）

分担研究者

下方浩史 名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 教授
国立長寿医療研究センター NILS-LSA 活用研究室 客員研究員
安藤富士子 愛知淑徳大学健康医療科学部 教授
国立長寿医療研究センター NILS-LSA 活用研究室 客員研究員

研究期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

A. 研究目的

高齢化が急速に進む日本社会において、高齢者の疾病を予防し、老化の進行を少しでも遅らせ、健康寿命延伸へと導くことの重要性が高まっている。高齢期の健康を考える上で、老化の進行過程や老化要因、老年病の発症要因などを明らかにする基礎医学研究の意義は極めて高く、平成 9 年から国立長寿医療研究センターでは大規模な疫学調査(NILS-LSA)が実施され、老化や老年病予防に資する疫学的エビデンスの集積が行われてきた。平成 24 年 7 月に NILS-LSA 第 7 次調査は終了したが、第 1 次から第 7 次調査で収集した膨大なデータの整備とその十分な活用が課題として残されている。

また平成 9 年の第 1 次調査開始から約 15 年が経過しており、初回調査参加者の約半数は死亡・転居・その他の理由により第 7 次調査（平成 24 年度終了）に参加していない（脱落者）。これらの者では、継続参加者に比し健康状態が悪い者が多く含まれることが想定されることから、第 1 次調査参加者を改めて追跡することにより、脱落者を含む集団において、より長期の様々な疾患発症等をエンドポイントとした検討が可能になる。

NILS-LSA は、その規模・調査内容ともにわが国が世界に誇れる独自の老化の大規模縦断研究であり、長寿科学を発展させる上で、これまでの膨大な基礎的データを十二分に活用した老化・老年病予防研究を推進することと、約半数が脱落している初回調査参加者の転帰を追い、老化・老年病予防に資する新たな疫学的知見を見出すことが重要である。

本研究班では NILS-LSA 第 1 次から第 7 次調査のデータをより有効に活用するために、第 1 次調査参加者に対する現在の健康状態を問う郵送追跡調査や、国立長寿医療研究センター職員の「NILS-LSA 研究参加」受入体制を整えること、NC バイオバンク事業との連携により、NILS-LSA 既存試料およびデータの利活用を促す取り組み等を通し、老化・老年病の発症促進因子・抑制因子を明らかにする研究を推進することを目的とした。

B. 研究方法

3 年間全体について

1. 第 1 次調査参加者に対する現在の健康状態を問う郵送追跡調査データを用いた研究

愛知県大府市および知多郡東浦町の地域住民（観察開始時年齢 40 歳から 79 歳）からの層化無作為抽出者を対象とした NILS-LSA の第 1 次調査に参加した 2,267 人を対象とし、平成 25 年度に現在の健康状態を問う質問票による郵送調査を実施した。質問票では、現在の疾病の有無、要介護認定の有無、ADL、喫煙などの生活習慣について質問した。

2. NILS-LSA 第1次から第7次調査のデータ整備とそれを活用した研究

NILS-LSA のこれまでの調査、データ整備作業、研究業務を担ってきた医学・心理学・栄養学・運動生理学の各分野の研究者を中心として、延べ16,338件の膨大なデータを効率的に活用するためのデータ整備を行うと同時に、老化の進行過程、老化要因、老年病の発症要因などを疫学的手法により明らかにすることを目的とした研究を実施した。またNILS-LSA 第1次から第7次調査のデータをより多くの研究者が活用可能とするために、国立長寿医療研究センター職員を対象とした「NILS-LSA 研究相談窓口」の開設と研究受入体制の整備を行うこととした。

平成27年度について

3. 第1次調査参加者（生存者）に対するバイオバンク事業への協力を問う同意把握

NILS-LSA 第1次調査参加者のうち、生存者に対し、NILS-LSA で収集した試料（血液等）・情報をバイオバンク事業へ預託することについての同意を把握した。同時に国立長寿医療研究センター内東棟1階長期縦断疫学調査センターで凍結保存していた検体は、既存フリーザーの老朽化が進んでいたため、全てをバイオバンク棟内NILS-LSA 専用フリーザーへ移動させた。その際、全検体の検体番号を確認しデータベース化を図った。

（倫理面への配慮）

NILS-LSA 第1次から第7次調査および郵送調査は「疫学研究に関する倫理指針」「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を遵守し、国立長寿医療研究センターにおける倫理・利益相反委員会での研究実施の承認を受けた上で実施した（審査結果通知書 No. 14, 52, 133, 146, 249, 369, 369-2, 644-2, 899）。

C. 研究結果

3年間全体について

1. 第1次調査参加者に対する現在の健康状態を問う郵送追跡調査データを用いた研究

質問票を郵送した1,933人のうち、1,462人から回答を得た（回収率：76%）。回答者1,462人以外の471人の内訳は、死亡24人（郵送調査により把握した死亡）、辞退1人、宛先不明33人、未回答413人であった。回収した質問票の性・年齢階級別の記述統計量をNILS-LSA 活用研究室のHPにモノグラフ（和文・英文）として公開した（<http://www.国立長寿医療研究センター.go.jp/department/ep/nilslsa.html>）。郵送調査を用いた研究成果として、中高年期の歩行速度やバランス能力（重心動揺）が14年後の高次生活機能に影響すること、様々な食品を摂取することが高次生活機能の中でも特に知的能動性の保持に関連すること等、原著や学会発表を通して、研究成果を公表した。

2. NILS-LSA 第1次から第7次調査のデータ整備とそれを活用した研究

平成25年度にはNILS-LSA 第7次調査（平成22-24年）のデータについてデータ確認および修正を行い、NILS-LSA 活用研究室のHPに性・年齢階級別の記述統計量をモノグラフ（和文・英文）として公開した。また既存データ整備作業の中で、身体活動量、身体活動強度

をライフコーダーから得た一日歩数、総エネルギー消費量、運動エネルギー消費量、軽強度、中強度、強強度の強度別身体活動時間で求め、性・年齢階級別の平均値及び標準偏差を計算し作表した（平成 26 年度実績報告書に掲載）。

データ整備と並行し、NILS-LSA のデータを用いた解析によって、医学、心理社会学、運動生理学、栄養学、身体組成学などの分野で老化・老年病予防に資する研究成果を創出した。本研究期間（3年間）に、50編(in press 含む)の原著、53編の総説、139回の学会発表（うち国際学会29回）、70回の講演会・セミナーにて研究成果を公表してきた。また一般向けにも、国立長寿医療研究センターのHPにおいて「すこやかな高齢期をめざして～ワンポイントアドバイス～」を開始し、随時、NILS-LSAからの老化・老年病予防に関する様々な研究成果を分かりやすく発信した（平成27年度末時点で20トピックス掲載）。

平成 27 年度について

3. 第 1 次調査参加者（生存者）に対するバイオバンク事業への協力を問う同意把握

NILS-LSA 第 1 次調査参加者のうち、生存者に対し、NILS-LSA で収集した試料（血液等）・情報をバイオバンク事業へ預託することについて同意を把握した。平成 27 年 6 月に倫理・利益相反委員会にて当研究課題の一部変更申請を行った（承認済）。10 月に死亡者と住所不明者を除く 1,798 人（大府市内 1,010 人、東浦町内 666 人、その他の地域 122 人）に対し、案内文と同意書を郵送し、平成 27 年度中に、1,111 人から本事業への同意を得た。

4. NILS-LSA 第 1 次から第 7 次調査のデータ整備とそれを活用した研究

平成 27 年度は栄養やサルコペニア、心理的 well-being を中心とした幅広い分野における老化や老年病についての研究成果を見出し、これらは 14 編の原著、19 編の総説、42 回の学会発表、27 回の講演会・セミナー、26 回のメディアでの広報、という多角的な方法で公表した。

D. 考察と結論

冒頭に述べたように、本研究班の課題は NILS-LSA の 15 年間の蓄積データの整備と、それを活用し老化・老年病の発症促進因子・抑制因子を横断的および縦断的に明らかにすること、NILS-LSA 第 1 次調査に参加した地域住民に対し現在の健康状態（エンドポイント）を把握するための郵送調査を行うこと、NILS-LSA 既存データおよび試料を活用するために NC バイオバンク事業を含めた利活用を促進することであった。

NILS-LSA の主たる目的は「日本人の老化像を明らかにし、老化および老年病に関する危険因子を解明する」ことであり、3 年間の研究を通して、本研究班の目的に合致した研究成果を数多く創出することができた。しかし、NILS-LSA のデータは膨大であり、まだまだ検討すべき課題は豊富であるため、本研究に続き長寿医療研究開発費（28-40）の課題「老化に関する長期縦断疫学研究（NILS-LSA）の活用と追跡調査」の中で学術的検討および成果の公表を行う予定である。

一方、研究者が NILS-LSA データを研究利用できるよう、国立長寿医療研究センター所属者全員を対象として平成 26 年度には「NILS-LSA 研究相談窓口」を開設した。平成 27 年度

はNILS-LSA第1次から第7次調査の主な変数一覧（データカタログ）を作成し、これを含む「NILS-LSA研究参加のてびき（国立長寿医療研究センター所属者向け）」を作成し、NILS-LSA研究参加に関する初回説明会を行った。今後、さらに国立長寿医療研究センター-病院内の専門医療職等の研究参加を促し、疫学研究のサポートを行い、国立長寿医療研究センターからの研究成果の発信に努める。NILS-LSAデータの更なる活用を行うために、本研究に続く長寿医療研究開発費（28-40）では、国立長寿医療研究センター外との共同研究を効率的に行うための基盤作りを行う予定である。

国立長寿医療研究センターのHPにおいて公開中の「すこやかな高齢期をめざして～ワンポイントアドバイス～」では、月に1-2トピックスを掲載し、NILS-LSAからの老化・老年病予防に関する様々な研究成果を分かりやすく発信してきた。現在、これに対しての一般からの問い合わせ（講演依頼を含む）が増えてきており、手応えがあるため、引き続き、センターHPにおいてコンテンツの充実化に努める。

平成28年現在、NILS-LSA第1次調査（平成9年）から約18年が経過した。第1次調査参加者（2,300人程度）のうち2割弱は死亡し、対象者の多くは後期高齢者となった。NILS-LSA既存データを最大限生かす上でも、これら生存者の転帰を追う追跡調査は必要不可欠であり、本研究コホートを閉じるまで、地方自治体の協力を得て、転帰の把握を行いデータベース化を進める。またデータの利活用を促すために、NILS-LSAを中心的に担ってきた研究者のみならず、様々な専門知識を有する研究者との共同研究体制を構築し、国立長寿医療研究センターから世界に向けて老化・老年病予防に資する疫学的知見の発信を行っていく予定である。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

平成25年度

- 1) Suzuki T, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Ito K, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Kato T: A randomized controlled trial of multicomponent exercise in older adults with mild cognitive impairment. *PloS One*, 8: e61483, 2013.
- 2) Hida T, Ishiguro N, Shimokata H, Sakai Y, Matsui Y, Takemura M, Terabe Y, Harada A: High prevalence of sarcopenia and reduced leg muscle mass in Japanese patients immediately after a hip fracture. *Geriatr Gerontol Int*, 13: 413-420, 2013.
- 3) Yuki A, Otsuka R, Kozakai R, Kitamura I, Okura T, Ando F, Shimokata H: Relationship between low free testosterone levels and loss of muscle mass. *Sci Rep*, 3: 1881, 2013.
- 4) Huang Y, Teranishi M, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Sone M, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Association between polymorphisms

- in genes encoding methylenetetrahydrofolate reductase and the risk of Ménière's disease. *J Neurogenet*, 27: 5-10, 2013.
- 5) Otsuka R, Kato Y, Imai T, Ando F, Shimokata H: Higher serum EPA or DHA, and lower ARA compositions with age independent of fatty acid intake in Japanese aged 40 to 79. *Lipids*, 48: 719-727, 2013.
 - 6) Teranishi M, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Suzuki H, Sone M, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Polymorphisms in genes involved in the free-radical process in patients with sudden sensorineural hearing loss and Ménière's disease. *Free Radic Res*, 47: 498-506, 2013.
 - 7) Osuga Y, Okamura K, Ando F, Shimokata H: Prevalence of lower urinary tract symptoms in middle-aged and elderly Japanese. *Geriatr Gerontol Int*, 13: 1010-1017, 2013.
 - 8) Nishita Y, Tange C, Tomida M, Ando F, Shimokata H: Does high educational level protect against intellectual decline in older adults? : A 10-year longitudinal study. *Jpn Psychol Res*, 55: 378-389, 2013.
 - 9) Uchida Y, Teranishi M, Nishio N, Sugiura S, Hiramatsu M, Suzuki H, Kato K, Otake H, Yoshida T, Tagaya M, Suzuki H, Sone M, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Endothelin-1 gene polymorphism in sudden sensorineural hearing loss. *Laryngoscope*, 123: E59-E65, 2013.
 - 10) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Ando F, Shimokata H: Utility of "loco-check," self-checklist for "locomotive syndrome" as a tool for estimating the physical dysfunction of elderly people. *Health*, 5: 97-102, 2013.
 - 11) Shimokata H, Ando F, Yuki A, Otsuka R: Age-related changes in skeletal muscle mass among community-dwelling Japanese: a 12-year longitudinal study. *Geriatr Gerontol Int*, 14: 85-92, 2014.
 - 12) 松井康素, 竹村真里枝: 地域在住中高齢者における膝関節痛と膝伸展筋力の関連. *JOSKAS 誌*, 38: 330-331, 2013.
 - 13) 幸篤武, 森あさか, 李成喆, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の脳萎縮を抑制する日常歩行量の解明〜地域からの無作為抽出者を対象とした大規模縦断研究〜. *デサントスポーツ科学*, 34: 31-39, 2013.
 - 14) 大塚礼, 加藤友紀, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年男女における性・年齢群別の血清脂肪酸構成比率. *日本栄養・食糧学会誌*, 66: 147-153, 2013.
 - 15) 大塚礼, 加藤友紀, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年男女における出生コホート別の10年間の魚介類およびEPA・DHA摂取量の推移. *栄養学雑誌*, 71: 15-25, 2013.
 - 16) 安藤富士子, 大塚礼, 幸篤武, 北村伊都子, 甲田道子, 下方浩史: 地域在住中高年者のサルコペニア有病率とその10年間の推移. *日本未病システム学会雑誌*, 19: 1-6, 2013.
 - 17) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 安藤富士子, 下方浩史: 成人後期の主観的幸福感に対する配偶者の有無と対人関係の影響. *日本未病システム学会雑誌*, 19:

88-92, 2013.

- 1 8) 今井具子, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の食事記録データから作成した料理データベースを用いた大学生の栄養素等推定値の有効性. 日本未病システム学会雑誌, 19: 93-97, 2013.
- 1 9) 堀川千賀, 大塚礼, 加藤友紀, 河島洋, 柴田浩志, 安藤富士子, 下方浩史: トリグリセリド高値の者における血清脂肪酸の特徴~地域在住の中高年男女における検討~. 日本未病システム学会雑誌, 19: 125-130, 2013.
- 2 0) 加藤友紀, 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者のアミノ酸摂取量-食品アミノ酸成分表の新規構築による推定-. 栄養学雑誌, 71: 299-310, 2013.
- 2 1) 安江穂, 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務: 一般地域在住中高年齢者における耳鳴の頻度と睡眠状態・抑うつとの関連について. Otol Jpn, 23: 854-860, 2013.
- 2 2) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者における知能と抑うつとの相互関係: 交差遅延効果モデルによる検討. 発達心理学研究, 25: 76-86, 2014.

平成 26 年度

- 1) Otsuka R, Tange C, Nishita Y, Kato Y, Imai T, Ando F, Shimokata H: Serum docosahexaenoic and eicosapentaenoic acid and risk of cognitive decline over 10 years among elderly Japanese. Eur J Clin Nutr, 68: 503-509, 2014.
- 2) Kitamura I, Koda M, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Six-year longitudinal changes in body composition of middle-aged and elderly Japanese: Age and sex differences in appendicular skeletal muscle mass. Geriatr Gerontol Int, 14: 354-361, 2014.
- 3) Yoshimura N, Akune T, Fujiwara S, Shimizu Y, Yoshida H, Omori G, Sudo A, Nishiwaki Y, Yoshida M, Shimokata H, Suzuki T, Muraki S, Oka H, Nakamura K: Prevalence of knee pain, lumbar pain and its coexistence in Japanese men and women: The Longitudinal Cohorts of Motor System Organ (LOCOMO) study. J Bone Miner Metab, 32: 524-532, 2014.
- 4) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Ando F, Shimokata H: Effects of knee extensor muscle strength on the incidence of osteopenia and osteoporosis after 6 years. J Bone Miner Metab, 32: 550-555, 2014.
- 5) Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Nakamoto M, Tomida M, Imai T, Ando F, Shimokata H: Cereal intake increases and dairy products decrease risk of cognitive decline among elderly female Japanese. J Prev Alz Dis, 1: 160-167, 2014.
- 6) Uchida Y, Sugiura S, Ueda H, Nakashima T, Ando F, Shimokata H: The association between hearing impairment and polymorphisms of genes encoding inflammatory mediators in Japanese aged population. Immun Ageing, 11: 18, 2014.
- 7) Otsuka R, Kato Y, Imai T, Ando F, Shimokata H: Secular trend of serum docosahexaenoic acid, eicosapentaenoic acid, and arachidonic acid

- concentrations among Japanese—A 4- and 13-year descriptive epidemiologic study. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids*, 94: 35-42, 2015.
- 8) Yoshimura N, Akune T, Fujiwara S, Shimizu Y, Yoshida H, Nishiwaki Y, Sudo A, Omori G, Yoshida M, Shimokata H, Suzuki T, Muraki S, Oka H, Nakamura K: Incidence of disability and its associated factors in Japanese men and women: the Longitudinal Cohorts of Motor System Organ (LOCOMO) study. *J Bone Miner Metab*, 33: 186-191, 2015.
- 9) Yuki A, Ando F, Otsuka R, Shimokata H: Low free testosterone is associated with loss of appendicular muscle mass in Japanese community-dwelling women. *Geriatr Gerontol Int*, 15: 326-333, 2015.
- 10) 加藤友紀, 大塚礼, 西田裕紀子, 丹下智香子, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者のプロリン摂取量が知能に及ぼす影響に関する縦断的研究. *日本未病システム学会雑誌*, 20: 99-104, 2014.
- 11) 西田裕紀子: 宗田・岡本論文「アイデンティティにおける「個」と「関係性」をとらえる尺度作成とその短縮版の検討」に対するコメント. *青年心理学研究*, 26: 71-75, 2014.
- 12) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 膝関節の変形および痛みと身体組成の関連. *Osteoporosis Jpn*, 22: 71-74, 2014.
- 13) 野坂咲耶, 光岡佑奈, 高井なつみ, 今井具子, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 料理ベースの写真付き iPhone・iPad 対応食事診断アプリケーションの有用性. *日本未病システム学会雑誌*, 21: 7-20, 2015.
- 14) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史, 鈴木隆雄: 中高年期における 14 年後の日常生活活動能力への心的発達要因の影響. *日本未病システム学会雑誌*, 21: 106-110, 2015.

平成 27 年度

- 1) Kasai T, Ishiguro N, Matsui Y, Harada A, Takemura M, Yuki A, Kato Y, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Sex- and age-related differences in mid-thigh composition and muscle quality determined by computed tomography in middle-aged and elderly Japanese. *Geriatr Gerontol Int*, 15: 700-706, 2015.
- 2) Kusudo T, Hashida Y, Ando F, Shimokata H, Yamashita H: Asp3Gly polymorphism affects fatty acid-binding protein 3 intracellular stability and subcellular localization. *FEBS Lett*, 589: 2382-2387, 2015.
- 3) Nakamoto M, Otsuka R, Yuki A, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Kato Y, Ando F, Shimokata H, Suzuki T: Higher gait speed and smaller sway area decrease the risk for decline in higher-level functional capacity among middle-aged and elderly women. *Arch Gerontol Geriatr*, 61: 429-436, 2015.
- 4) Harada A, Ito S, Matsui Y, Sakai Y, Takemura M, Tokuda H, Hida T, Shimokata H: Effect of alendronate on muscle mass: Investigation in patients with osteoporosis. *Osteop Sarcopenia*, 1: 53-58, 2015.

- 5) Yasue M, Sugiura S, Uchida Y, Otake H, Teranishi M, Sakurai T, Toba K, Shimokata H, Ando F, Otsuka R, Nakashima T: Prevalence of sinusitis detected by magnetic resonance imaging in subjects with dementia or Alzheimer's disease. *Curr Alzheimer Res*, 12: 1006-1011, 2015.
- 6) Horikawa C, Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Kakutani S, Rogi T, Kawashima H, Shibata H, Ando F, Shimokata H: Cross-sectional association between serum concentrations of n-3 long-chain PUFA and depressive symptoms: results in Japanese community dwellers. *Br J Nutr*, 115: 672-680, 2016.
- 7) Kozakai R, Ando F, Kim HY, Yuki A, Otsuka R, Shimokata H: Sex-differences in age-related grip strength decline: A 10-year longitudinal study of community-living middle-aged and older Japanese. *J Phys Fitness Sports Med*, 5: 87-94, 2016.
- 8) Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Nakamoto M, Imai T, Ando F, Shimokata H: Age-related changes in energy intake and weight in community-dwelling middle-aged and elderly Japanese. *J Nutr Health Aging*, 20: 383-390, 2016.
- 9) Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Nakamoto M, Tomida M, Imai T, Ando F, Shimokata H, Suzuki T: Dietary diversity and 14-year decline in higher-level functional capacity among middle-aged and elderly Japanese. *Nutrition* (in press).
- 10) Otsuka R, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Kato Y, Nakamoto M, Imai T, Ando F, Shimokata H: Dietary diversity decreases risk of cognitive decline among elderly Japanese. *Geriatr Gerontol Int* (in press).
- 11) Hida T, Shimokata H, Sakai Y, Ito S, Matsui Y, Takemura M, Kasai T, Ishiguro N, Harada A: Sarcopenia and sarcopenic leg as potential risk factors for acute osteoporotic vertebral fracture among older women. *Eur Spine J* (in press).
- 12) Koda M, Kitamura I, Okura T, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: The associations between smoking habits and serum triglyceride or hemoglobin A1c levels differ according to visceral fat accumulation. *J Epidemiol* (in press).
- 13) Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J Gerontol Biol Sci* (in press).
- 14) 大塚礼, 加藤友紀, 西田裕紀子, 丹下智香子, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住高齢者における短鎖および中鎖脂肪酸摂取が8年間の認知機能得点低下に及ぼす影響. *日本栄養・食糧学会誌*, 68: 101-111, 2015.

2. 学会発表

平成 25 年度

- 1) Shimokata H: A longitudinal study of frailty and aging in Japan. Symposium: Frailty in the older people: dynamic perspectives. The 9th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society, Oct, 4th, Venice, 2013.
- 2) 安藤富士子, 下方浩史: アクティブな毎日と心身の健康. シンポジウム「生きがいづくりから考える健康長寿」. 第 13 回日本抗加齢医学会総会, 6 月 29 日, 横浜, 2013.
- 3) 下方浩史: 一般公開講演会「元気に老いる」. 日本家政学会中部支部第 58 回大会, 9 月 7 日, 名古屋, 2013.
- 4) Uchida Y, Sugiura S, Yasue M, Ando F, Nakashima T, Shimokata H: The association between hearing loss and polymorphisms of genes encoding inflammatory mediators in Japanese aged population. 20th IFOS World Congress, Jun, 3rd, Seoul, 2013.
- 5) Ando F, Nishita Y, Tange C, Otsuka R, Kato Y, Imai T, Shimokata H: The effects of carotenoid intakes on intelligence in community-dwelling Japanese middle-aged and elderly. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Jun, 25th, Seoul, 2013.
- 6) Lee SC, Yuki A, Kozakai R, Nishita Y, Tange C, Kim HY, Ando F, Shimokata H: The relationship between light-intensity physical activity and cognitive function in a community-dwelling elderly population: An 8-year longitudinal study. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Jun, 25th, Seoul, 2013.
- 7) Shimokata H, Ando F, Kuzuya M: Hidden obesity and risk of life-style related disease in the elderly Japanese. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Jun, 26th, Seoul, 2013.
- 8) Kozakai R, Ando F, Kim HY, Lee SC, Yuki A, Shimokata H: Factors leading to regular exercise in community-living middle-aged and older people without regular exercise experience. 18th annual Congress of the ECSS, Jun, 26-29th, Barcelona, 2013.
- 9) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Ando F, Shimokata H: Effects of knee extensor muscle strength on the incidence of osteopenia and osteoporosis after six years. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Jun, 27th, Seoul, 2013.
- 10) Satake S, Shimokata H, Senda K, Kondo I, Toba K: The predictive validity of the Kihon Checklist for identifying frailty in a community-dwelling older population. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Jun, 27th, Seoul, 2013.
- 11) Yuki A, Otsuka R, Kozakai R, Ando F, Shimokata H: Low free testosterone levels are associated with loss of appendicular muscle mass in Japanese community-dwelling women. 18th annual Congress of the ECSS, Jun, 29th, Barcelona, 2013.

- 1 2) Kasai T, Matsui Y, Harada A, Yuki A, Kato Y, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Sex and age related differences in muscle mass and quality determined by mid-thigh computed tomography in a middle aged and elderly Japanese population. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research (ICFSR 2014), Mar, 14th, Barcelona, 2014.
- 1 3) 大菅陽子, 吉田正貴, 安藤富士子, 下方浩史: 頸動脈エコー検査は4年後の夜間頻尿発生を予測できるか. 第101回日本泌尿器科学会総会, 4月25日, 札幌, 2013.
- 1 4) 大菅陽子, 吉田正貴, 下方浩史, 安藤富士子: メタボリック症候群構成要素が下部尿路症状(LUTS)の発生に与える影響についての検討—4年間の縦断的研究—. 第26回日本老年泌尿器科学会, 5月17日, 横浜, 2013.
- 1 5) 内田育恵, 杉浦彩子, 安江穂, 中島務: 血管内皮増殖因子遺伝子多型と加齢性難聴—老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)より. 第114回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5月17日, 札幌, 2013.
- 1 6) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 石黒直樹, 安藤富士子, 下方浩史: ロコモティブシンドロームの陽性項目による意義・有用性の検討—陽性高頻度3項目の運動機能評価の比較—. 第86回日本整形外科学会学術総会, 5月24日, 広島, 2013.
- 1 7) 竹村真里枝, 松井康素, 原田敦, 石黒直樹, 安藤富士子, 下方浩史: 一般地域住民におけるロコモティブシンドロームの疫学的検討. 第86回日本整形外科学会学術総会, 5月24日, 広島, 2013.
- 1 8) 大塚礼, 下方浩史: 中高年者の多価不飽和脂肪酸摂取と知能・認知機能に関する長期縦断疫学研究. 第67回日本栄養・食糧学会大会, 5月26日, 名古屋, 2013.
- 1 9) 安藤富士子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 加藤友紀, 大塚礼, 下方浩史: 知能の加齢変化における喫煙とカロテノイドの交互作用—8年間の縦断データの解析—. 第55回日本老年医学会学術集会, 6月5日, 大阪, 2013.
- 2 0) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者運動機能評価法としてのロコモティブシンドロームチェック項目(ロコモチェック)の有用性の検討. 第55回日本老年医学会学術集会, 6月5日, 大阪, 2013.
- 2 1) 大塚礼, 加藤友紀, 西田裕紀子, 丹下智香子, 安藤富士子, 下方浩史: 60歳以上男女での血清DHA, EPA濃度と10年後の認知機能低下との関連. 第55回日本老年医学会学術集会, 6月5日, 大阪, 2013.
- 2 2) 佐竹昭介, 下方浩史, 千田一嘉, 近藤和泉, 鳥羽研二: 基本チェックリストの質問領域と健康障害発生の関連性. 第55回日本老年医学会学術集会, 6月6日, 大阪, 2013.
- 2 3) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 坪井さとみ, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期における「死」に関する思索経験の縦断的検討. 第55回日本老年社会科学大会, 6月6日, 大阪, 2013.
- 2 4) 西田裕紀子: 地域在住高齢者の知能の経年変化とその心理社会的要因に関する縦断研究. 第55回日本老年社会科学大会, 6月6日, 大阪, 2013.
- 2 5) 大塚礼, 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史: 血清DHA, EPA濃度に対する性, 年齢, 生活習慣等の影響—中高年男女における検討—. 第49回日本循環器病管理予防学会,

- 6月14日, 金沢, 2013.
- 26) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年齢者における膝関節変形と身体組成との関連. 第5回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 6月21日, 札幌, 2013.
 - 27) 杉浦彩子, 安江穂, 内田育恵, 中島務: 一般地域住民における副鼻腔炎の危険因子—長期縦断疫学研究より—. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 7月11日, 神戸, 2013.
 - 28) 安江穂, 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務: 一般地域住民の副鼻腔MRI 所見の検討—長期縦断疫学研究より—. 第75回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 7月11日, 神戸, 2013.
 - 29) 安藤富士子, 加藤友紀, 今井具子, 大塚礼, 下方浩史: カロテノイド摂取が知能の加齢変化に及ぼす影響—地域在住中高年齢者を対象とした8年間の縦断研究—. 第60回日本栄養改善学会学術総会, 9月14日, 神戸, 2013.
 - 30) 今井具子, 大塚礼, 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史: 経時的に見た地域在住中高年齢者の栄養補助食品利用状況. 第60回日本栄養改善学会学術総会, 9月14日, 神戸, 2013.
 - 31) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期における「死に対する態度」の縦断的検討. 日本心理学会第77回大会, 9月19日, 札幌, 2013.
 - 32) 富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年齢者のワーク・ファミリー・バランスと心理的 well-being の関連. 日本心理学会第77回大会, 9月20日, 札幌, 2013.
 - 33) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者における知能と認知的余暇活動の相互関係. 日本心理学会第77回大会, 9月20日, 札幌, 2013.
 - 34) 大菅陽子, 吉田正貴, 下方浩史, 大塚礼, 安藤富士子: 地域在住の中高年齢者における余暇身体活動の有無と4年後の夜間頻尿発生の関連についての検討. 第20回日本排尿機能学会, 9月21日, 静岡, 2013.
 - 35) 幸篤武, 安藤富士子, 小坂井留美, 大塚礼, 下方浩史: アンドロゲン受容体遺伝子多型とテストステロンの相互作用が中高年齢男性の筋量に与える影響. 第68回日本体力医学会大会, 9月21日, 東京, 2013.
 - 36) 小坂井留美, 安藤富士子, 金興烈, 幸篤武, 大塚礼, 下方浩史: 中高年齢における握力の縦断変化の性差. 第68回日本体力医学会大会, 9月22日, 東京, 2013.
 - 37) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 幸篤武, 大塚礼, 下方浩史: 膝関節の変形および痛みと身体組成との関連. 第15回骨粗鬆症学会, 10月12日, 大阪, 2013.
 - 38) 内田育恵, 杉浦彩子, 中島務: 炎症性メディエーター関連遺伝子多型と加齢性難聴. 第58回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10月24日, 松本, 2013.
 - 39) 寺西正明, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 杉浦彩子, 曾根三千彦, 中島務: 突発性難聴における酸化ストレス関連の遺伝子多型の検討. 第58回日本聴覚

医学会総会・学術講演会, 10月24日, 松本, 2013.

- 40) 加藤友紀, 大塚礼, 西田裕紀子, 丹下智香子, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者のプロリン摂取量が知能に及ぼす影響に関する縦断的研究. 第20回日本未病システム学会学術総会, 11月10日, 東京, 2013.
- 41) 内田育恵, 杉浦彩子, 安江穂, 中島務: 血管内皮増殖因子 (VEGF) 遺伝子多型と加齢性難聴-喫煙との関連. 第23回日本耳科学会総会・学術講演会, 11月25日, 宮崎, 2013.
- 42) 大菅陽子, 吉田正貴, 下方浩史, 大塚礼, 安藤富士子: 地域在住の中高齢者における総身体活動量と4年後の夜間頻尿発生との関連についての検討. 第63回日本泌尿器科学会中部総会, 11月29日, 名古屋, 2013.
- 43) 加藤友紀, 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の性・年代別たんぱく質摂取量の推移. 第24回日本疫学会学術総会, 1月25日, 仙台, 2014.
- 44) 福岡秀記, 丹下智香子, 山中行人, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の角膜形状と乱視の大きさ・角度の性差・年代差に関する検討. 角膜カンファランス 2014 (第38回日本角膜学会総会・第30回日本角膜移植学会), 1月30日, 宜野湾, 2014.
- 45) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期における活動能力の縦断的变化-エリクソン心理社会的段階目録検査 (EPSI) の影響-. 日本発達心理学会第25回大会, 3月22日, 京都, 2014.
- 46) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の短期記憶の加齢変化: 8年間の縦断的検討. 日本発達心理学会第25回大会, 3月22日, 京都, 2014.
- 47) 富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者のワーク・ファミリー・バランスと人格特性の関連-ワーク・ファミリー・コンフリクトとワーク・ファミリー・ファシリテーションの観点から-. 日本発達心理学会第25回大会, 3月22日, 京都, 2014.

平成26年度

- 1) Shimokata H: Age-related changes in skeletal muscle mass among community dwelling Japanese - a 12-year longitudinal study. Asian Conference on Sarcopenia Research, Jun, 20th, Taipei, 2014.
- 2) 下方浩史: 超高齢者医療の重要性. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 6月15日, 神戸, 2014.
- 3) 西田裕紀子: 日本における高齢者心理の長期縦断研究の最前線「知能の加齢変化とその心理社会的要因」. 日本心理学会第78回大会, 9月11日, 京都, 2014.
- 4) 内田育恵: 高齢期難聴がもたらす個人への不利益と社会的影響. 第25回日本老年医学会東海地方会, 10月4日, 名古屋, 2014.
- 5) 松井康素: ロコモティブシンドローム. 第25回日本老年医学会東海地方会, 10月4日, 名古屋, 2014.
- 6) 下方浩史: 地域住民におけるサルコペニア・フレイルの長期縦断疫学研究. 第25回

- 日本老年医学会東海地方会, 10月4日, 名古屋, 2014.
- 7) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Ando F, Otsuka R, Shimokata H: Knee pain status in a community of middle-aged and elderly women depending on radiography changes and age. 1st Congress of Asia-Pacific Knee, Arthroscopy and Sports Medicine Society (APKASS), Apr, 14th, Nara, 2014.
 - 8) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Ando F, Otsuka R, Kato Y, Yuki A, Shimokata H: Relationship between knee pain and fat and muscle mass—Investigation by sex and level of knee deformity in general community residents. World Congress on Osteoarthritis (OARSI 2014), Apr, 25th, Paris, 2014.
 - 9) Fukuoka H, Tange C, Yamanaka Y, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Sex- and age-based NEI VFQ-25 for middle-aged and older Japanese population. ARVO 2014 Annual Meeting, May, 4th, Orlando, 2014.
 - 10) Imai T, Otsuka R, Kato Y, Ando F, Shimokata H: A longitudinal study of dietary supplement use in community-living middle age and elderly Japanese. The 20th IEA World Congress of Epidemiology, Aug, 18th, Anchorage, 2014.
 - 11) Ando F, Nishita Y, Tange C, Otsuka R, Shimokata H: Asymptomatic cerebral white matter lesions predict future cognitive decline in Japanese elderly. The 20th IEA World Congress of Epidemiology, Aug, 19th, Anchorage, 2014.
 - 12) Imai T, Otsuka R, Kato Y, Ando F, Shimokata H: A study on the usefulness of iPhone/iPad applications to confirm the dietary habits in Japan. The 6th Asian Congress of Dietetics, Aug, 24th, Taipei, 2014.
 - 13) Uchida Y, Sugiura S, Nakashima T, Ueda H, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Vascular endothelial growth factor polymorphisms and hearing impairment in Japanese aged population. Inner Ear Biology Workshop 2014, Nov, 2nd, Kyoto, 2014.
 - 14) Sugiura S, Nakashima T, Yasue M, Uchida Y, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: A population-based cohort study of tinnitus in Japan. Inner Ear Biology Workshop 2014, Nov, 3rd, Kyoto, 2014.
 - 15) Fukuoka H, Tange C, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Intraocular pressure, central corneal thickness, and Body Mass Index as risk factors for glaucoma. 25th American Glaucoma Society Annual Meeting, Feb, 26th, California, 2015.
 - 16) 福岡秀記, 丹下智香子, 山中行人, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 日本における地域在住中高年者の NEI VFQ-25 の性別・年代別スコアに関する研究. WOC2014 (第118回日本眼科学会総会・第29回アジア太平洋眼科学会), 4月6日, 東京, 2014.
 - 17) 内田育恵, 杉浦彩子, 安江穂, 植田広海, 中島務: 高齢者における難聴の知的機能に対する長期的影響. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5月16日, 福岡, 2014.
 - 18) 安江穂, 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務: 高齢者における難聴の認知機能に対する縦断的影響. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5月16日, 福岡, 2014.

- 1 9) 杉浦彩子, 安江穂, 内田育恵, 中島務: 難聴と認知機能低下に関するシステマティックレビュー. 第 115 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5 月 16 日, 福岡, 2014.
- 2 0) 竹村真里枝, 松井康素, 原田敦, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者における椎体骨折の疫学的検討. 第 87 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 22 日, 神戸, 2014.
- 2 1) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 膝関節痛と脂肪量・筋量との関連—一般地域住民を対象とした性別・変形程度別の検討. 第 87 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 22 日, 神戸, 2014.
- 2 2) 笠井健広, 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: Mid-thigh CT による大腿筋量測定と筋肉の質の評価. 第 87 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 25 日, 神戸, 2014.
- 2 3) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者の知能の低さはその後の死亡を予測するか—12 年の追跡データから—. 日本老年社会科学会第 56 回大会, 6 月 8 日, 下呂, 2014.
- 2 4) 安藤富士子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼, 下方浩史: 地域在住高齢者における認知症発症予測のための健診項目の検討. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 6 月 12 日, 福岡, 2014.
- 2 5) 大塚礼, 加藤友紀, 西田裕紀子, 丹下智香子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住高齢男女における食品摂取と 10 年後の認知機能との関連. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 6 月 12 日, 福岡, 2014.
- 2 6) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年期における「死に対する態度」の加齢変化と性の効果. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 6 月 13 日, 福岡, 2014.
- 2 7) 内田育恵, 杉浦彩子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 中島務, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 12 年間の縦断データ解析による高齢期難聴の知的機能への影響. 第 56 回日本老年医学会学術集会, 6 月 14 日, 福岡, 2014.
- 2 8) 福岡秀記, 丹下智香子, 山中行人, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者における内部乱視の大きさ・種類の性・年代に関する検討. 第 29 回 JSCRS 学術総会, 7 月 12 日, 福岡, 2014.
- 2 9) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 女性における膝関節痛の有無および既往と脂肪量・筋量との関連. 第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 7 月 24 日, 広島, 2014.
- 3 0) 甲田道子, 北村伊都子, 大藏倫博, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 喫煙の動脈硬化リスクへの影響には内臓脂肪が関与している. 第 19 回アディポサイエンス・シンポジウム, 8 月 23 日, 大阪, 2014.
- 3 1) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: APOE 遺伝子型が知能の加齢変化に及ぼす影響. 日本心理学会第 78 回大会, 9 月 10 日, 京都, 2014.
- 3 2) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・

- 後期の死に対する態度へのライフイベントの影響. 日本心理学会第78回大会, 9月11日, 京都, 2014.
- 33) 幸篤武, 安藤富士子, 大塚礼, 下方浩史: 中高年齢者における日常歩行量と全がん死亡との関連. 第69回日本体力医学会大会, 9月20日, 長崎, 2014.
- 34) 塚崎晃士, 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 中本真理子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 大腿中央部CTのサルコペニア診断における有用性. 第25回日本老年医学会東海地方会, 10月4日, 名古屋, 2014.
- 35) 寺西正明, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 西尾直樹, 曾根三千彦, 杉浦彩子, 中島務: メニエール病における炎症関連の遺伝子多型の検討. 第24回日本耳科学会総会・学術講演会, 10月16日, 新潟, 2014.
- 36) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 膝関節痛の有無および既往と脂肪量・筋量との関連—一般地域住民を対象とした性別・変形程度別の検討. 第16回日本骨粗鬆症学会, 10月24日, 東京, 2014.
- 37) 竹村真里枝, 松井康素, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 椎体骨折の疫学的検討(地域住民を対象に). 第16回日本骨粗鬆症学会, 10月24日, 東京, 2014.
- 38) 下方浩史, 安藤富士子, 大塚礼: 「かくれメタボ」の要因—地域住民における15年間の縦断的研究. 第35回日本肥満学会, 10月24日, 宮崎, 2014.
- 39) 大塚礼, 安藤富士子, 北村伊都子, 甲田道子, 下方浩史: 地域在住中高年齢者における「かくれメタボ」に関連する食生活項目の横断的検討. 第35回日本肥満学会, 10月25日, 宮崎, 2014.
- 40) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年齢期における14年後の日常生活活動能力への心的発達要因の影響. 第21回日本未病システム学会学術総会, 11月2日, 大阪, 2014.
- 41) 野坂咲耶, 光岡佑奈, 高井なつみ, 今井具子, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 写真挿入料理データベースを用いたiPhone・iPad対応アプリの開発と有用性の検討. 第21回日本未病システム学会学術総会, 11月2日, 大阪, 2014.
- 42) 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住高齢者における牛乳摂取と13年間の脳萎縮進行の有無に関する検討. 第73回日本公衆衛生学会総会, 11月7日, 宇都宮, 2014.
- 43) 寺西正明, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 杉浦彩子, 曾根三千彦, 中島務: 突発性難聴における遺伝子多型の検討. 第59回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 11月27日, 下関, 2014.
- 44) 杉浦彩子, 中島務, 内田育恵, 安江穂: 一般地域住民における耳鳴の長期経過. 第59回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 11月28日, 下関, 2014.
- 45) Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Nakamoto M, Tomida M, Imai T, Ando F, Shimokata H, Suzuki T: Dietary diversity and 14-year decline in activities of daily living among middle-aged and elderly community dwellers. 第25回日本疫学会学術総会, 1月21日, 名古屋, 2015.
- 46) Nakamoto M, Otsuka R, Yuki A, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Kato Y, Ando F, Shimokata H, Suzuki T: Gait speed and sway area predict decline in activities

- of daily living among middle-aged and elderly women. 第 25 回日本疫学会学術総会, 1月 21 日, 名古屋, 2015.
- 4 7) 下方浩史, 安藤富士子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼: 一日歩数と抑うつ— Parallel latent growth curve model による縦断的解析の試み. 第 16 回日本健康支援学会年次学術大会, 3月 7 日, 福岡, 2015.
- 4 8) 安藤富士子, 丹下智香子, 西田裕紀子, 大塚礼, 下方浩史: 地域在住中高年者の健康診断受診行動と 14 年後の日常生活活動能力. 第 16 回日本健康支援学会年次学術大会, 3月 7 日, 福岡, 2015.
- 4 9) 富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者のワーク・ファミリー・バランスと自尊感情の関連—ワーク・ファミリー・コンフリクトとファシリテーションの観点から—. 日本発達心理学会第 26 回大会, 3月 20 日, 東京, 2015.
- 5 0) 森山雅子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者における社会的ネットワークと自尊感情の関連—コンボイモデルを用いて—. 日本発達心理学会第 26 回大会, 3月 20 日, 東京, 2015.
- 5 1) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢期の知能は人生満足感にどのように影響するか: 12 年間のパネルデータ解析. 日本発達心理学会第 26 回大会, 3月 20 日, 東京, 2015.
- 5 2) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期における死に対する態度とパーソナリティ. 日本発達心理学会第 26 回大会, 3月 21 日, 東京, 2015.

平成 27 年度

- 1) Uchida Y: Food consumption and hearing impairment in the aged population. The 30th Politzer Society Meeting/The 1st World Congress of Otolaryngology, Round-Table, Jul, 1st, Niigata, 2015.
- 2) Uchida Y: Cognitive function and hearing in the elderly. 13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery (JTOHNS2015), Symposium, Dec, 3rd, Tokyo, 2015.
- 3) 内田育恵: 加齢性難聴のエイジングケア. 第 15 回日本抗加齢医学会総会, シンポジウム, 5月 31 日, 福岡, 2015.
- 4) 下方浩史: 肥満とサルコペニア. 第 36 回日本肥満学会, 教育講演, 10月 2 日, 名古屋, 2015.
- 5) 内田育恵, 杉浦彩子, 中島務, 植田広海: 疫学的視点—近年の高齢者の難聴・認知機能・社会的孤立などの現況. 第 25 回日本耳科学会総会・学術講演会, ミニシンポジウム, 10月 9 日, 長崎, 2015.
- 6) 下方浩史: 目指せ! 百歳、健康長寿. 第 17 回日本健康支援学会年次学術大会, 大会長講演, 2月 27 日, 日進, 2016.
- 7) 安藤富士子: サルコペニアの疫学. 第 17 回日本健康支援学会年次学術大会, ワークショップ, 2月 27 日, 日進, 2016.
- 8) 丹下智香子: 「死」に備える生き方. 第 17 回日本健康支援学会年次学術大会, 教育

- 講演, 2月27日, 日進, 2016.
- 9) 西田裕紀子: 認知機能のエイジング. 第17回日本健康支援学会年次学術大会, 教育講演, 2月28日, 日進, 2016.
 - 1 0) 内田育恵: 加齢性難聴とその予防. 第17回日本健康支援学会年次学術大会, 教育講演, 2月28日, 日進, 2016.
 - 1 1) Fukuoka H, Tange C, Ando F, Otsuka R, Shimokata H: Corneal endothelial damage rate in middle-aged and elderly Japanese. World Cornea Congress VII (WCC VII), Apr, 16th, San Diego, CA, 2015.
 - 1 2) Fukuoka H, Tange C, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Relationship of types, sizes of astigmatism, and uncorrected visual acuity with emmetropia. 2015 ASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery) • ASOA (American Society of Ophthalmic Administrators) Symposium and Congress, Apr, 17th, San Diego, CA, 2015.
 - 1 3) Matsui Y, Tsukasaki K, Takemura M, Harada A, Nakamoto M, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Utility of the mid-thigh cross-sectional muscle area on CT in diagnosing sarcopenia—analyses of the association with skeletal muscle volume measured by DXA. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research (ICFSR 2015), Apr, 24th, Boston, 2015.
 - 1 4) Tsukasaki K, Matsui Y, Takemura M, Harada A, Nakamoto M, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: The relation of muscle strength and gait speed with muscle cross-sectional area determined by mid thigh computed tomography – comparison and skeletal muscle mass measured by dual-energy X-ray absorptiometry. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research (ICFSR 2015), Apr, 25th, Boston, 2015.
 - 1 5) Matsui Y, Takemura M, Harada A, Kato Y, Otsuka R, Ando F, Shimokata H: Relation between current and past knee pain status and knee extensor strength in women – Comparison of three age groups of community-dwelling women by degree of deformation on radiographs. 2015 Osteoarthritis Research Society International World Congress, May, 1-2nd, Seattle, 2015.
 - 1 6) Otsuka R, Kato Y, Nakamoto M, Imai T, Ando F, Shimokata H: Intake of meat and fish, and survival in community-dwelling Japanese males. 12th Asian congress of Nutrition, May, 16th, Yokohama, 2015.
 - 1 7) Nakamoto M, Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Tomida M, Ando F, Shimokata H: Higher serum zinc level decreased the risk of cognitive decline in elderly Japanese women. 12th Asian congress of Nutrition, May, 16th, Yokohama, 2015.
 - 1 8) 塚崎晃士, 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 中本真理子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の筋力、歩行速度と大腿中央部 CT の筋横断面積との関連—DXA の筋量との比較—. 第88回日本整形外科学会学術総会, 5月23日, 神戸, 2015.
 - 1 9) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 女性における膝関節痛の有無および既往と膝伸展筋力との関連—地域住民を対象とし

- た X 線像変形程度別の, 3 つの年代による比較検討一. 第 88 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 23 日, 神戸, 2015.
- 2 0) 安藤富士子, 加藤友紀, 松井康素, 原田敦, 大塚礼, 下方浩史: Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS) 基準による地域高齢者のサルコペニア有症率と全国有症数の将来推計. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 6 月 13 日, 横浜, 2015.
- 2 1) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の加齢による心理的变化(その 1) - 抑うつ (CES-D) の 12 年間の縦断的变化一. 日本老年社会科学会第 57 回大会, 6 月 13 日, 横浜, 2015.
- 2 2) 富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の加齢による心理的变化(その 2) - 自尊感情の 12 年間の縦断的变化一. 日本老年社会科学会第 57 回大会, 6 月 13 日, 横浜, 2015.
- 2 3) 森山雅子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の社会的ネットワークと自尊感情の関連-コンボイモデルにおける親密性と間柄に着目して一. 日本老年社会科学会第 57 回大会, 6 月 13 日, 横浜, 2015.
- 2 4) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 森山雅子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の加齢による心理的变化(その 3) - 生活満足度尺度 K (LSI-K) の 12 年間の縦断的变化一. 日本老年社会科学会第 57 回大会, 6 月 14 日, 横浜, 2015.
- 2 5) 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 加藤友紀, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高齢者における膝関節変形と歩行との関連. 第 7 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 6 月 19 日, 札幌, 2015.
- 2 6) 寺西正明, 小出悠介, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 西尾直樹, 曾根三千彦, 杉浦彩子, 安藤富士子, 下方浩史, 中島務: 突発性難聴における遺伝子多型の検討. 第 63 回日本耳鼻咽喉科学会中部地方部会連合会, 7 月 18 日, 松本, 2015.
- 2 7) 小出悠介, 寺西正明, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 西尾直樹, 曾根三千彦, 杉浦彩子, 中島務: 突発性難聴における遺伝子多型の検討. 第 162 回日耳鼻東海地方部会連合講演会, 9 月 6 日, 名古屋, 2015.
- 2 8) 竹村真里枝, 松井康素, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 一般住民の骨粗鬆症有病率と治療率-NILS-LSA 第 2 次調査と第 7 次調査の 10 年間差一. 第 17 回日本骨粗鬆症学会, 9 月 18 日, 広島, 2015.
- 2 9) 幸篤武, 安藤富士子, 大塚礼, 下方浩史: 日本人男性におけるサルコペニアと全死亡との関連. 第 70 回日本体力医学会大会, 9 月 19 日, 和歌山, 2015.
- 3 0) 丹下智香子, 西田裕紀子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 成人中・後期の「死に対する態度」への知能の影響. 日本心理学会第 79 回大会, 9 月 22 日, 名古屋, 2015.
- 3 1) 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者の知能の加齢変化パターン: 成長混合分布モデルを用いて. 日本心理学会第 79 回大会, 9 月 22 日, 名古屋, 2015.
- 3 2) 富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 中高年者のワーク・ファミリー・バランス: ワーク・ファミリー・コンフリクトとファシリテーション尺度を用いたクラスタ分析. 日本心理学会第 79 回大会, 9 月 22 日,

名古屋, 2015.

- 3 3) 松井康素, 笠井健広, 塚崎晃士, 竹村真里枝, 原田敦: 大腿中央 CT 画像を用いたサルコペニア評価法の有用性. 第 125 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 10 月 3 日, 名古屋, 2015.
- 3 4) 寺西正明, 内田育恵, 加藤健, 大竹宏直, 吉田忠雄, 西尾直樹, 曾根三千彦, 杉浦彩子, 中島務: メニエール病における遺伝子多型の検討. 第 25 回日本耳科学会総会・学術講演会, 10 月 8 日, 長崎, 2015.
- 3 5) 安藤富士子, 幸篤武, 大塚礼, 下方浩史: AWGS 基準によるサルコペニアと身体機能低下との関連—地域在住高齢者での横断的検討—. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 10 月 11 日, 札幌, 2015.
- 3 6) 内田育恵, 杉浦彩子, 中島務, 植田広海: 地域在住高齢女性の難聴リスク軽減食品の検討. 第 60 回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10 月 22 日, 東京, 2015.
- 3 7) 杉浦彩子, 中島務, 安江穂, 内田育恵: 耳鳴り発症・消失に関与する因子について—長期縦断疫学研究より. 第 60 回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 10 月 22 日, 東京, 2015.
- 3 8) 大菅陽子, 吉田正貴, 下方浩史, 大塚礼, 西田裕紀子, 安藤富士子: 地域在住中高齢者における夜間頻尿と下肢筋力との関連についての横断的検討. 第 65 回日本泌尿器科学会中部総会, 10 月 25 日, 岐阜, 2015.
- 3 9) 中本真理子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 地域在住中高年者の味噌摂取がその後の全死亡および癌死亡に及ぼす影響. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 11 月 5 日, 長崎, 2015.
- 4 0) 杉浦彩子, 内田育恵, 西田裕紀子, 丹下智香子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 一般地域住民における耳垢の頻度と聴力・認知機能との関連. 第 17 回日本健康支援学会年次学術大会, 2 月 27 日, 日進, 2016.

3. 総説

平成 25 年度

- 1) 吉村典子, 中村耕三, 阿久根徹, 藤原佐枝子, 清水容子, 吉田英世, 大森豪, 須藤啓広, 西脇祐司, 吉田宗人, 下方浩史: LOCOMO スタディ. 日本臨床, 71: 642-645, 2013.
- 2) 下方浩史, 安藤富士子: 検査基準値の考え方—医学における正常と異常—. 日老医誌, 50: 168-171, 2013.
- 3) 下方浩史, 安藤富士子, 大塚礼: 健康長寿社会を築く長期縦断疫学研究. 日本未病システム学会雑誌, 19: 29-35, 2013.
- 4) 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者の栄養に関する疫学研究. Geriat Med, 51: 365-369, 2013.
- 5) 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史: 高齢者の抑うつと栄養. Geriat Med, 51: 393-397, 2013.
- 6) 下方浩史, 安藤富士子: 老化の長期縦断研究からみた高齢期の健康増進の解明. Geriat Med, 51: 895-899, 2013.

- 7) 大塚礼：日々の食事を介した高齢期の健康増進. Geriat Med, 51 : 907-912, 2013.
- 8) 下方浩史, 安藤富士子：高齢者の基準値の考え方. JOHNS, 29 : 1377-1380, 2013.
- 9) 安藤富士子, 下方浩史：果実・果汁飲料と機能性成分(10) 中高年者の疾病予防における果物・カロテノイド摂取の役割. 食品と容器, 54 : 530-535, 2013.
- 10) 鈴木隆雄, 下方浩史：加齢性筋肉減少症(サルコペニア)の基礎と臨床. Locomotive Pain Frontier, 2 : 80-85, 2013.
- 11) 内田育恵：加齢性難聴患者へのアドバイス. 日耳鼻会報, 116 : 1144-1145, 2013.
- 12) 杉浦彩子, 内田育恵, 寺西正明, 中島務：働き盛りにおこる難聴－突発性難聴と遺伝子多型－. 日本職業・災害医学会会誌, 61 : 351-355, 2013.
- 13) 中島務, 安江穂：難聴・耳鳴の疫学, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域疾患の最新疫学. 耳喉頭頸, 85 : 1038-1044, 2013.
- 14) 幸篤武, 安藤富士子, 下方浩史：サルコペニアの診断と評価. 臨床栄養, 124 : 279-285, 2014.
- 15) 幸篤武, 下方浩史：地域在住高齢者におけるサルコペニアの実態. 医学のあゆみ, 248 : 649-654, 2014.
- 16) 下方浩史：プレナリーセッション 耳鼻咽喉科医と高齢社会－高齢社会の現状と問題点－. 日耳鼻会報, 117 : 227-228, 2014.

平成 26 年度

- 1) Yuki A, Ando F, Otsuka R, Matsui Y, Harada A, Shimokata H: Epidemiology of sarcopenia in elderly Japanese. JPFSM, 4: 111-115, 2015.
- 2) 西田裕紀子：知能のエイジングに関する研究の動向. 老年社会科学, 36:60-69, 2014.
- 3) 松井康素, 原田敦：ロコモティブシンドローム. MB Med Reha, 170 : 77-84, 2014.
- 4) 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務：難聴に対するリハビリテーション. MB Med Reha, 170 : 104-110, 2014.
- 5) 下方浩史：虚弱の危険因子. MB Med Reha, 170 : 121-125, 2014.
- 6) 下方浩史：フレイルの危険因子. Geriat Med, 52 : 593-596, 2014.
- 7) 下方浩史, 安藤富士子：ロコモティブシンドロームとサルコペニア. 日本抗加齢医学会雑誌, 10 : 347-353, 2014.
- 8) 下方浩史：高齢者糖尿病検査データの見方. 糖尿病診療マスター, 12:556-560, 2014.
- 9) 安藤富士子, 下方浩史：血清カロテノイド濃度－その個人差、性差、季節変動についての基礎的検討－. 果樹試験研究推進協議会会誌, 33 : 10-13, 2014.
- 10) 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務, 下方浩史：難聴と認知症. Geriat Med, 52 : 781-784, 2014.
- 11) 安藤富士子, 西田裕紀子, 下方浩史：喫煙が知能・認知機能に及ぼす影響と抗酸化食品の可能性. Geriat Med, 52 : 793-796, 2014.
- 12) 松井康素, 原田敦：ロコモティブシンドローム. Geriat Med, 52 : 841-847, 2014.
- 13) 西田裕紀子：成人期・老年期における発達研究の動向. 教育心理学年報, 53:25-36, 2014.
- 14) 幸篤武, 安藤富士子, 下方浩史：サルコペニアの概念と診断基準. Clin Calcium, 24 : 1441-1448, 2014.

- 1 5) 下方浩史：健康長寿と食生活，飲酒．日医雑誌，143：1728-1734，2014.
- 1 6) 幸篤武，安藤富士子，下方浩史：サルコペニアの疫学 II．最新医学，70：37-43，2015.
- 1 7) 幸篤武，下方浩史：地域在住高齢者におけるサルコペニアの実態．別冊「医学のあゆみ」，11-16，2015.
- 1 8) 下方浩史：認知症の要因と予防．名古屋学芸大学健康・栄養研究所年報，143：1-13，2015.

平成 27 年度

- 1) 大塚礼，安藤富士子，下方浩史：栄養とサルコペニア．骨粗鬆症治療，14：29-35，2015.
- 2) 下方浩史：生きがい、栄養と健康長寿．全栄施協月報，655：7-33，2015.
- 3) 内田育恵：高齢期難聴がもたらす影響と期待される介入の可能性．音声言語医学，56：143-147，2015.
- 4) 内田育恵：耳を鍛えない．日本抗加齢医学会雑誌，11：77-80，2015.
- 5) 下方浩史，安藤富士子：国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究 (NILS-LSA)．医学のあゆみ，253：779-785，2015.
- 6) 大塚礼，安藤富士子，下方浩史：脳機能維持に対する栄養学的保護因子ー認知症・うつに着目してー．老年精神医学雑誌，26：624-631，2015.
- 7) 幸篤武，安藤富士子，下方浩史：サルコペニアの概念，評価とその意義．臨牀透析，31：1013-1020，2015.
- 8) 杉浦彩子：高齢者におけるリハビリテーションの阻害因子とそれに対する一般的対応，11．聴覚障害．Geriatr Med，53：753-757，2015.
- 9) 幸篤武，安藤富士子，下方浩史：疫学研究から見える今後のサルコペニア・フレイル対策．医薬ジャーナル，51：113-117，2015.
- 1 0) 大塚礼：日々の食生活からのフレイル予防ー地域在住中高年者の栄養調査結果を踏まえてー．Aging & Health，24：16-19，2015.
- 1 1) 大塚礼，加藤友紀：中年におけるたんぱく質摂取の実態．体育の科学，65：794-800，2015.
- 1 2) 安藤富士子，幸篤武，下方浩史：サルコペニアの疫学；地域在住高齢者における頻度の現状．MB Orthop，28：31-40，2015.
- 1 3) 内田育恵：高齢者の聴覚異常感．MB ENTONI，188：60-65，2016.
- 1 4) 大塚礼：サルコペニア、フレイルと栄養．日本臨床栄養協会誌，31：85-92，2016.
- 1 5) 大塚礼，荒井秀典：地域住民におけるたんぱく質摂取と腎機能の経年変化．腎臓，38：13-17，2016.
- 1 6) 下方浩史，安藤富士子，幸篤武：II 基礎編：加齢による体格・必要栄養量の変化 身体組成 (筋肉量，脂肪量)，健康寿命延伸をめざす栄養戦略ーフレイル・疾病重症化予防のためにー．臨床栄養 (別冊 JCN セレクト) (印刷中)．
- 1 7) 今井具子：高齢者の食生活の特徴と対応を考える，新しい高齢者食品・介護食品の開発．食品と開発 (印刷中)．
- 1 8) 内田育恵：老化と難聴，聴覚障害．Med Sci Digest (印刷中)．

- 19) 下方浩史, 安藤富士子, 幸篤武: サルコペニアとロコモの発症因子, サルコペニアとロコモ. Loco Cure (印刷中) .

4. 著書, Chapters

平成 25 年度

- 1) 下方浩史: 「養生訓」に学ぶ! 病気にならない生き方. 素朴社, p1-238, 2013.
- 2) 幸篤武, 下方浩史: 罹患の実態について教えてください. サルコペニア 24 のポイント~高齢者への適切なアプローチをめざして~ 初版. 関根里恵・小川純人編, フジメディカル出版, p17-21, 2013.
- 3) 安藤富士子, 下方浩史: サルコペニア高齢者の特徴は? (遺伝子、性差、原疾患、生活習慣など). サルコペニア 24 のポイント~高齢者への適切なアプローチをめざして~ 初版. 関根里恵・小川純人編, フジメディカル出版, p22-26, 2013.
- 4) 西田裕紀子: 心理的ウェルビーイング. 新・青年心理学ハンドブック 初版. 後藤宗理編, 福村出版, p288, 2014.
- 5) 安藤富士子, 下方浩史: 暑さ寒さに対応できにくくなってきた. 加齢症状で悩む?! 患者さんに応える医学一年のせいにしたくない 30 の症状 初版. 葛谷雅文・伴信太郎編, プリメド社, p97-102, 2014.
- 6) 下方浩史: 栄養疫学. ウェルネス公衆栄養学 2014 年版. 前大道教子・松原知子編, 医歯薬出版, p104-124, 2014.
- 7) 下方浩史: 地域在住高齢者における要介護化の危険因子. Advances in Aging and Health Research 2013 在宅の高齢者を支えるー医療・介護・看取りー. 公益財団法人長寿科学振興財団, p125-135, 2014.

平成 26 年度

- 1) 幸篤武, 安藤富士子, 下方浩史: 第 1 章サルコペニアの基礎的理解 3. サルコペニアの有症率と危険因子. サルコペニアと運動 エビデンスと実践 第 1 版. 島田裕之編, 医歯薬出版株式会社, p16-22, 2014.
- 2) 大塚礼: 第 2 章サルコペニアの評価指標 4. 関連評価: 栄養. サルコペニアと運動 エビデンスと実践 第 1 版. 島田浩之編, 医歯薬出版株式会社, p59-63, 2014.
- 3) 丹下智香子: 第 12 章 後期高齢期 コラム 死に対する態度と人間関係. 人間関係の生涯発達心理学 初版. 大藪泰, 林もも子, 小塩真司, 福川康之著, 丸善出版, p144, 2014.
- 4) 富田真紀子: ワーク・ライフ・バランス. 働く人びとのこころとケア 介護職・対人援助職のための心理学 初版. 山口智子編, 遠見書房, p65-76, 2014.
- 5) 下方浩史: 新型栄養失調に注意. 暮らしの豆手帖 2015. 国民生活センター, p102-103, 2014.
- 6) 下方浩史: 認知症を防ぐには. 暮らしの豆手帖 2015. 国民生活センター, p104-105, 2014.
- 7) 下方浩史: 死因と病因の現状と課題. 介護福祉学事典. 日本介護福祉学会事典編纂委員会編, ミネルヴァ書房, p696-697, 2014.
- 8) 原田敦, 松井康素, 下方浩史: 認知症高齢者と骨粗鬆症との関連は. 認知症者の転

倒予防とリスクマネジメント 第2版. 武藤芳照, 鈴木みずえ編, 日本医事新報社, p62-65, 2014.

- 9) 杉浦彩子: 驚異の小器官 耳の科学: 聞こえる仕組みから、めまい、耳掃除まで 第1版. 講談社, p1-224, 2014.
- 10) 下方浩史: 栄養疫学. ウェルネス公衆栄養学 2015年版. 前大道教子, 松原知子編, 医歯薬出版, p105-127, 2015.
- 11) 松井康素: 「ロコモ」をとめよう 初版. 中日新聞社, p1-124, 2015.

平成 27 年度

- 1) 大塚礼: MCI の危険因子 I. 栄養. 基礎からわかる軽度認知障害 (MCI), 第1版. 鈴木隆雄監・島田裕之編, 医学書院, p126-133, 2015.
- 2) 下方浩史: 老年症候群. 介護支援専門員基本テキスト, 7訂. 一般財団法人長寿社会開発センター編, 中央法規, p6-14, 2015.
- 3) 下方浩史: バイタルサインと検査. 介護支援専門員基本テキスト, 7訂. 一般財団法人長寿社会開発センター編, 中央法規, p86-99, 2015.
- 4) 大塚礼: 栄養検査とフレイル. ステップ2. フレイルを理解する. フレイルの予防とリハビリテーション, 第1版. 島田裕之編, 医歯薬出版, p62-68, 2015.
- 5) 甲田道子: 栄養によるフレイル予防. ステップ3. フレイルを予防する. フレイルの予防とリハビリテーション, 第1版. 島田裕之編, 医歯薬出版, p107-113, 2015.
- 6) 幸篤武, 安藤富士子, 下方浩史: サルコペニアの概念と診断基準. サルコペニアとフレイル〜医療職間連携による多角的アプローチ, 初版. 荒井秀典編, 医薬ジャーナル社, p14-21, 2015.
- 7) 下方浩史, 安藤富士子, 幸篤武: サルコペニアの疫学. サルコペニア診療マニュアル, 第1版. 原田敦編, メジカルビュー社, p7-13, 2016.
- 8) 下方浩史: 栄養疫学. ウェルネス公衆栄養学 2016年版. 前大道教子・松原知子編, 医歯薬出版, p107-129, 2016.
- 9) 西田裕紀子: 高齢者の心の健康とクオリティ・オブ・ライフ. 人間の形成と心理のフロンティア. 伊藤良高・下坂剛編, 晃洋書房 (印刷中).
- 10) 西田裕紀子: 心理的ウェルビーイング: よく生きる. 自尊感情の心理学. 中間玲子編, 金子書房 (印刷中).
- 11) 大塚礼, 八谷寛: 肥満・肥満症の成因. 肥満症診療ガイドライン 2016. 日本肥満学会編 (印刷中).
- 12) 安藤富士子, 幸篤武, 下方浩史: AWGS 基準によるサルコペニアの頻度. 最新医学別冊「診断と治療の ABC 112」. 小川純人編, 最新医学社 (印刷中).

5. 新聞・報道, 等

平成 25 年度

- 1) 大塚礼: 文藝春秋 SPECIAL, 平成 25 年 4 月 27 日, 「病気を防ぐ食事法ーメタボリック・シンドローム」
- 2) 下方浩史: NHK 総合テレビ クローズアップ現代, 平成 25 年 6 月 10 日, 「老いてこそ挑め ～三浦雄一郎 80 歳のメッセージ～」

- 3) 下方浩史：フジテレビ アゲるテレビ，平成 25 年 6 月 17 日，「肉食シニア」
- 4) 下方浩史：TBS テレビ ひるおび！，平成 25 年 7 月 5 日，「ぎんさんの娘 4 姉妹長寿の秘訣」
- 5) 下方浩史：NHK E テレ TV シンポジウム，平成 25 年 7 月 6 日，「認知症を予防せよ 生活習慣との深い関係」
- 6) 下方浩史：NHK 総合テレビ 突撃！アツとホーム，平成 25 年 7 月 6 日，「“スーパー 102 歳” 秀吉翁 健康の秘密を公開」
- 7) 下方浩史：毎日放送 魔法のレストラン，平成 25 年 8 月 5 日，「ダイエット&長寿&病院食スペシャル」
- 8) 下方浩史：聖教新聞，平成 25 年 8 月 13 日朝刊，「幸齢社会「養生訓」に学ぶ予防医学」
- 9) 幸篤武：中日こどもウイークリー，平成 25 年 9 月 7 日，「増える体力ある高齢者」
- 1 0) 下方浩史：産経新聞，平成 25 年 9 月 19 日朝刊，「健康百寿 家事とおしゃべり元気の源」
- 1 1) 下方浩史：NHK 総合テレビ クローズアップ現代，平成 25 年 10 月 10 日，「人生後半こそ輝け！ “スーパー高齢者” の競技会」
- 1 2) 安藤富士子：CBC ラジオ きく！ラジオ，平成 26 年 1 月 13～17 日，「「健康生活」肥満について」
- 1 3) NILS-LSA 活用研究室：中日新聞，平成 26 年 2 月 17 日朝刊，「認知症の予防へ 研究成果伝える」
- 1 4) 下方浩史：中日新聞，平成 26 年 2 月 18 日朝刊，「今を楽しむ悠々自適 セカンD0 ライフを思いのままに～ウイズエイジングで前向き人生～」
- 1 5) 下方浩史：クロワッサン，平成 26 年 2 月 25 日，「よい食生活や運動習慣以上に、「夢を抱いて生きる」ことが健康長寿を支えてくれます」
- 1 6) 下方浩史：中日新聞，平成 26 年 2 月 27 日朝刊，「今を楽しむ悠々自適 セカンD0 ライフを思いのままに～老年病を防ぐ日常生活～」
- 1 7) 内田育恵：中日新聞，平成 26 年 3 月 3 日朝刊，「聞こえに違和感を感じたら!? 知っておきたい耳の話」

平成 26 年度

- 1) 安藤富士子：CBC ラジオ きく！ラジオ，平成 26 年 5 月 5～9 日，「人はどうやって覚えるのか？～脳の記憶のメカニズム」
- 2) 下方浩史：日本テレビ 所さんの目がテン！，平成 26 年 6 月 8 日，「体幹の科学」
- 3) 下方浩史：健康産業速報 第 1849 号，平成 26 年 7 月 25 日，「認知症発症リスク、年代により差」
- 4) 下方浩史：健康産業速報 第 1857 号，平成 26 年 8 月 26 日，「サルコペニア発症、遊離テストステロン関与の可能性」
- 5) 下方浩史：NHK 総合テレビ 特報フロンティア，平成 26 年 9 月 12 日，「低栄養にご用心～高齢者に忍び寄る危険～」
- 6) 下方浩史：NHK 総合テレビ あのころ東海北陸で～中部アーカイブス，平成 26 年 9 月 13 日，「きんさんぎんさん 100 歳の時間（とき）」

- 7) 下方浩史:朝日新聞,平成26年9月21日朝刊,「でら日本一東海 食卓の名脇役 再起狙う」
- 8) 下方浩史:TBSテレビ いっぷく!,平成26年10月1日,「このままじゃもったいない遺産「ちゃぶ台」」
- 9) 下方浩史:テレビ朝日 みんなの家庭の医学「新たな原因が判明!冬に増える身体の不調解消スペシャル」,平成26年12月9日,「サルコペニア肥満」
- 10) 下方浩史:テレビ朝日 みんなの家庭の医学「五大栄養素スペシャル」,平成27年3月24日,「たんぱく質」

平成27年度

- 1) 安藤富士子:NHK WORLD Medeical Frontiers,平成27年5月5日,「認知症」
- 2) NILS-LSA 活用研究室:Azbil Vol.3,平成27年6月1日,「認知症をはじめとする老年病の要因を探り、予防へつなげる」
- 3) 下方浩史:朝日新聞,平成27年6月21日朝刊,「でら日本一東海 元気サポート 街も会社も」
- 4) 安藤富士子:Medical Tribune 48(28),平成27年6月23日,「85歳以上の男性の半数はサルコペニアー第57回日本老年医学会学術集会」
- 5) 下方浩史:フジテレビ 新報道2001,平成27年6月28日,「愛知県、健康長寿日本一の秘密」
- 6) 下方浩史:日本テレビ 所さんの目がテン,平成27年7月12日,「徳之島の科学」
- 7) 下方浩史:在宅介護&高齢者ホームのすべて,平成27年7月24日,「元気の処方箋.健康長寿の決め手は「栄養」にあり」
- 8) 下方浩史:ぶんり7号,平成27年9月,「健康な長寿社会に向けて私たちができること」
- 9) 下方浩史:へるすあっぷ21 第372号,平成27年10月1日,「認知症のリスクと予防」
- 10) 下方浩史:日本テレビ 所さんの目がテン,平成27年11月29日,「長寿村「松川村」の科学」
- 11) 松井康素:シニア情報誌「ローズ」 第189号,平成27年12月19日,「「ロコモ」をとめよう いつまでもお元気で」
- 12) 杉浦彩子:美蕾 No.120,平成27年12月20日,「高齢者の耳垢塞栓ーたかが耳垢、されど耳垢ー」
- 13) 下方浩史:TBSテレビ 健康カプセル!ゲンキの時間,平成28年1月3日,「愛知に学ぶゲンキの秘訣」
- 14) 内田育恵:NHK Eテレ 団塊スタイル,平成28年1月15日,「あきらめないで!聴力の老化」
- 15) 下方浩史:中日新聞,平成28年1月19日朝刊,「隠れメタボ試算900万人 肥満ではないが「代謝性疾患」」
- 16) 下方浩史:東京新聞,平成28年1月19日朝刊,「隠れメタボ試算900万人 運動、食生活改善で予防」
- 17) 下方浩史:CHUNICHI Web,平成28年1月19日,「隠れメタボ試算900万人 肥満」

ではないが「代謝性疾患」

- 1 8) 下方浩史：TOKYO Web, 平成 28 年 1 月 19 日, 「隠れメタボ試算 900 万人 運動、食生活改善で予防」
- 1 9) 下方浩史：読売新聞, 平成 28 年 3 月 7 日夕刊, 「「隠れメタボ」914 万人」
- 2 0) 下方浩史：日本テレビ news every., 平成 28 年 3 月 8 日, 「隠れメタボが 914 万人・細身の人も要注意」
- 2 1) 下方浩史：日本テレビ NEWS ZERO, 平成 28 年 3 月 8 日, 「全国で推計 900 万人以上「隠れメタボ」とは？その危険性」
- 2 2) 下方浩史：フジテレビ 直撃 LIVE グッディ!, 平成 28 年 3 月 9 日, 「細身の人も要注意・隠れメタボが 900 万人越え」
- 2 3) 下方浩史：フジテレビ みんなのニュース, 平成 28 年 3 月 10 日, 「メタボは腹回りで決められず・やせていても要注意」
- 2 4) 内田育恵：悠々自適倶楽部セミナーレポート Vol.2, 平成 28 年 3 月 22 日, 「もっと知りたい！大人の「聞こえ」と「補聴器」の話」
- 2 5) 大塚礼：メディアミルクセミナーニュースレター No.42, 平成 28 年 3 月, 「牛乳・乳製品と認知機能との関連～地域住民を対象とした長期縦断疫学研究～」

6. その他, セミナー等

平成 25 年度

- 1) 笠井健広, 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 幸篤武, 大塚礼, 下方浩史, 安藤富士子：Mid thigh CT による大腿筋量測定～Sarcopenia の病態変化～. 第 39 回名古屋大学医学部整形外科学教室研究報告会, 6 月 22 日, 名古屋, 2013.
- 2) 大塚礼：脂肪酸摂取による認知症予防：地域住民 2,400 人を対象とした 15 年間の「老化に関する長期縦断疫学研究」から. Neuro2013 ランチョンセミナー, 6 月 22 日, 京都, 2013.
- 3) 下方浩史：生活習慣病と認知症の深い関係ー生活習慣と認知症の関係を疫学調査する立場から. フォーラム認知症 in 池袋, 6 月 22 日, 東京, 2013.
- 4) 内田育恵：高齢化社会ー難聴がもたらす影響と補聴による効果. 日耳鼻大阪府地方部会が行う補聴器相談医資格更新のための講習会, 6 月 29 日, 大阪, 2013.
- 5) 下方浩史：老いてこそ夢に挑め. 富山新聞政経文化懇話会, 7 月 26 日, 富山, 2013.
- 6) 堀川千賀, 大塚礼, 加藤友紀, 西田裕紀子, 丹下智香子, 安藤富士子, 下方浩史：血中必須脂肪酸と短期記憶に関する大規模地域住民での縦断的研究. 第 9 回必須脂肪酸と健康研究会, 8 月 2 日, 大阪, 2013.
- 7) 下方浩史：健康長寿と栄養. 愛知県栄養士会平成 25 年度生涯学習研修会, 8 月 25 日, 名古屋, 2013.
- 8) 大塚礼：食生活からの健康長寿を目指して. 平成 25 年度戦没者遺族相談員研修会, 10 月 29 日, 名古屋, 2013.
- 9) 大塚礼：食生活からの健康長寿を目指して. 平成 25 年度戦傷病者相談員研修会, 10 月 29 日, 名古屋, 2013.
- 1 0) 内田育恵：高齢者の耳の健康を考える. 「高齢者医療最前線」. ASIAN AGING SUMMIT

2013, 11月13日, 東京, 2013.

- 1 1) 大塚礼: 日々の食事を介した高齢期の健康増進～地域住民における食事調査結果を交えて～. 知多保健所管内栄養士研修会, 11月15日, 知多, 2013.
- 1 2) 下方浩史: 高齢社会の現状と問題点. プレナリーセッション耳鼻咽喉科医と高齢社会. 第27回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会, 11月16日, 名古屋, 2013.
- 1 3) 大塚礼: 脂肪酸摂取による認知機能低下予防: 「老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」から. 第68回ライフトピア連携研究会(保健学セミナー), 11月21日, 名古屋, 2013.
- 1 4) 下方浩史: 生きがい、栄養と健康長寿. 第112回全国栄養士養成施設協会研修会, 11月27日, 名古屋, 2013.
- 1 5) 下方浩史: 夢を語り、夢を目指して生きる－健康長寿の秘訣. 第22回トータルライフ医療学術集会, 12月14日, 東京, 2013.
- 1 6) 下方浩史: 栄養と健康長寿. 日本冷凍食品協会・日本冷凍食品検査協会東海・北陸地区会員協議会講演, 1月17日, 名古屋, 2014.
- 1 7) 下方浩史: 仲間と続ける健康づくり. 横浜市保土ヶ谷福祉保健センター介護予防講演会, 1月28日, 横浜, 2014.
- 1 8) 下方浩史: 老いてこそ夢に挑め－健康長寿そして認知症予防へ. 奄美市認知症啓発講演会, 2月2日, 奄美, 2014.
- 1 9) 下方浩史: 認知症予防を目指して～大府市・東浦町での15年間の大規模研究～. 厚生労働科学研究・研究成果等普及啓発事業による成果発表会「認知症の予防を目指して」, 基調講演, 2月16日, 東浦, 2014.
- 2 0) 大塚礼: 食生活からの認知症予防～DHAと認知機能に関する研究成果～. 厚生労働科学研究・研究成果等普及啓発事業による成果発表会「認知症の予防を目指して」, シンポジウム, 2月16日, 東浦, 2014.
- 2 1) 西田裕紀子: 知能の維持・向上に役立つ心理的な特性とは～結晶知能を伸ばそう～. 厚生労働科学研究・研究成果等普及啓発事業による成果発表会「認知症の予防を目指して」, シンポジウム, 2月16日, 東浦, 2014.
- 2 2) 安藤富士子: 認知症予防から心の健康まで～活力ある高齢期を目指して～. 厚生労働科学研究・研究成果等普及啓発事業による成果発表会「認知症の予防を目指して」, シンポジウム, 2月16日, 東浦, 2014.

平成26年度

- 1) Shimokata H: Nutrition and Healthy Aging. Aging Dialog between Switzerland and Japan, Jun, 30th, Tokyo, 2014.
- 2) Matsui Y: New approaches in evaluating sarcopenia. The 10th International Symposium on Geriatrics and Gerontology, Feb, 7th, Higashiura, 2015.
- 3) Shimokata H: Nutrition and Healthy Aging. Japanese-Swiss Joint Workshop on “Aging, Health and Technology”, Mar, 19th, Tokyo, 2015.
- 4) 下方浩史: 百歳まで元気に生きよう. 一般社団法人昭和法人会第2回講演会, 4月10日, 名古屋, 2014.
- 5) 下方浩史: 老いてこそ夢を語れ. 連続講座「百歳まで元気!」, 5月22日, 東京,

2014.

- 6) 下方浩史：夢を語り、夢をめざして生きる！健康長寿の秘訣. シニア大学健康学部, 5月23日, 岩倉, 2014.
- 7) 塚崎晃士, 松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 中本真理子, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史：大腿中央部CTを用いた筋肉の量と質の評価. 第40回名古屋大学医学部整形外科学教室研究報告会, 6月28日, 名古屋, 2014.
- 8) 西田裕紀子：知能の加齢変化とその要因に関する長期縦断研究. 第31回臨老死生学・老年行動学研究会, 7月2日, 大阪, 2014.
- 9) 堀川千賀, 大塚礼, 西田裕紀子, 丹下智香子, 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史：血中必須脂肪酸とうつに関する大規模地域住民での横断解析. 第10回必須脂肪酸と健康研究会, 8月1日, 大阪, 2014.
- 10) 内田育恵：国内外の疫学研究における加齢性難聴・新知見. 第4回臓器連関研究シンポジウム, 9月13日, 新潟, 2014.
- 11) 福岡秀記, 丹下智香子, 日野智之, 大塚礼, 安藤富士子, 下方浩史：乱視の種類（直乱視、倒乱視、斜乱視）と裸眼視力との関連. 第84回京都府立医科大学同窓眼科集談会ならびに明交会総会, 9月23日, 京都, 2014.
- 12) 下方浩史：日本人高齢者の栄養と健康維持. WKCフォーラム 高齢者のためのイノベーション～アドヒアランス向上のために：薬剤治療と食事療法～, 10月1日, 神戸, 2014.
- 13) 下方浩史：栄養と長寿. 名古屋市介護予防研修会, 1月15日, 名古屋, 2015.
- 14) 下方浩史：めざせ、健康100歳. 岐南十六会講演会, 1月27日, 岐阜, 2015.
- 15) 下方浩史：めざせ、健康100歳. 海部南部地区商工会連絡協議会講演会, 1月28日, 弥富, 2015.
- 16) 下方浩史：老いてこそ挑め～ぎんさんの娘さんたち、三浦雄一郎さんから学ぶ. 日進市平成26年度介護予防講演会, 2月13日, 日進, 2015.
- 17) 下方浩史：ぎんさんの娘たちに学ぶ長寿の秘訣. 四日市市健康づくり団体合同スキルアップ教室, 2月22日, 四日市, 2015.
- 18) 中本真理子：血清抗酸化ミネラル濃度が認知機能に及ぼす影響－日本人高齢者における検討. 平成26年度流動研究員発表会, 2月25日, 大府, 2015.
- 19) 丹下智香子：高齢期における知能低下の抑制要因. 2015年村上研究会／計量心理学研究会, 3月28日, 名古屋, 2015.

平成27年度

- 1) 内田育恵：高齢者への対応－耳鳴り・難聴. 第39回愛知県耳鼻咽喉科医会研修会（合同研修会）, 4月4日, 名古屋, 2015.
- 2) Matsui Y: Utility of the CT mid-thigh cross-sectional muscle area in evaluating muscle mass-comparison with DXA. The 1st 国立長寿医療研究センター-ICAH Symposium, Jun, 2nd, Obu, 2015.
- 3) Otsuka R: The introduction of NILS-LSA. -For the prevention of aging/geriatric disease-. The 1st 国立長寿医療研究センター-ICAH Symposium, Jun, 2nd, Obu, 2015.

- 4) 下方浩史：目指せ、健康長寿～「養生訓」から学ぶ、百歳まで元気に生きるための知恵～．中村生涯学習センター公開講座，6月2日，名古屋，2015.
- 5) 塚崎晃士，松井康素，竹村真里枝，原田敦，中本真理子，大塚礼，安藤富士子，下方浩史：中高年者の筋力、歩行速度と大腿中央部CTの筋横断面積との関連-DXAの筋量との比較-．第41回名古屋大学医学部整形外科学教室研究報告会，6月27日，名古屋，2015.
- 6) 大塚礼，加藤友紀，西田裕紀子，丹下智香子，安藤富士子，下方浩史：地域在住高齢者における乳製品および短鎖脂肪酸摂取、血清脂肪酸と認知機能に関する長期縦断疫学研究．牛乳乳製品健康科学フォーラム 平成26年度「牛乳乳製品健康科学」学術研究報告会，6月28日，東京，2015.
- 7) 下方浩史：栄養から健康長寿へ．第4回日本栄養改善学会東海支部会学術総会，市民公開講座，6月28日，稲沢，2015.
- 8) 大塚礼：サルコペニア、フレイルと栄養．NR・サプリメントアドバイザー向けレベルアップセミナー，7月5日，大阪，2015.
- 9) 杉浦彩子，伊藤恵里奈，内田育恵，中島務，大塚礼，安藤富士子，下方浩史，三宅杏季，加藤大介，柘植勇人：耳鳴を主訴とする受診患者の特性．日本聴覚医学会第1回耳鳴・難聴研究会，7月11日，東京，2015.
- 10) 内田育恵：耳鳴の診療ガイドライン作成に向けて：1.疫学．日本聴覚医学会第1回耳鳴・難聴研究会，パネルディスカッション，7月11日，東京，2015.
- 11) 松井康素：ロコモをとめよう．ローズ倶楽部講演会，7月18日，名古屋，2015.
- 12) 内田育恵：難聴と認知症．睡眠と認知症ワークショップ(第22回睡眠学セミナー)，8月9日，京都，2015.
- 13) 内田育恵：高齢期難聴の社会経済的影響を考える．第37回愛知県耳鼻咽喉科医会名古屋地区研修会，8月22日，名古屋，2015.
- 14) 下方浩史：～老いてこそ夢に挑め～健康長寿そして認知症予防へ．認知症予防講演会，11月13日，大阪，2015.
- 15) 安藤富士子：中高年の心の健康とアルコール～地域在住中高年者の12年間のデータからわかること～．第5回飲酒と健康に関する講演会，11月17日，東京，2015.
- 16) 下方浩史：認知症予防を目指して～栄養・運動・心理からのアプローチ～，老いてこそ夢に挑め～健康長寿そして認知症予防へ．第76回日本体力医学会中国・四国地方会，地域公開講座，11月21日，高知，2015.
- 17) 西田裕紀子：認知症予防を目指して～栄養・運動・心理からのアプローチ～，心理面からの認知症予防．第76回日本体力医学会中国・四国地方会，地域公開講座，11月21日，高知，2015.
- 18) 大塚礼：認知症予防を目指して～栄養・運動・心理からのアプローチ～，食生活からの認知症予防．第76回日本体力医学会中国・四国地方会，地域公開講座，11月21日，高知，2015.
- 19) 安藤富士子：認知症予防を目指して～栄養・運動・心理からのアプローチ～，運動・身体活動からの認知症予防．第76回日本体力医学会中国・四国地方会，地域公開講座，11月21日，高知，2015.

- 20) 内田育恵：社会経済的観点からみた高齢期難聴における補聴器の役割. 第5回「日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医」資格更新のための講習会, 11月29日, 富山, 2015.
- 21) 内田育恵：高齢難聴者の実態と補聴. 平成27年度認定言語聴覚士講習会（聴覚障害領域）, 12月19日, 所沢, 2015.
- 22) 下方浩史：健康的に老いる～シニアライフを輝かせる考え方. 熱田生涯学習センター公開講座, 1月14日, 名古屋, 2016.
- 23) 下方浩史：超高齢社会と介護予防. 市民公開講座「介護予防・認知症予防の実践方法」, 2月28日, 日進, 2016.
- 24) 大塚礼：栄養による認知症予防. 市民公開講座「介護予防・認知症予防の実践方法」, 2月28日, 日進, 2016.
- 25) 内田育恵：もっと知りたい！大人の「聞こえ」と「補聴器」の話. 「悠々自適倶楽部」セミナー, 3月1日, 名古屋, 2016.
- 26) 大塚礼：牛乳・乳製品と認知機能との関連～地域住民を対象とした長期縦断疫学研究～. 第42回メディアミルクセミナー, 3月4日, 東京, 2016.
- 27) 下方浩史, 安藤富士子, 大塚礼, 葛谷雅文, 島田裕之, 吉田英世, 森本茂人, 中川正法：大規模疫学調査による、認知症の発症促進因子および抑制因子の検索に関する研究. 平成27年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所研究・実践報告会, 3月17日, 日進, 2016.
- 28) 幸篤武：ウォーキングの新たな効果. 平成28年度全国大学体育連合中四国支部第1回研修会, 3月26日, 倉敷, 2016.
- 29) 西田裕紀子：高齢者のパーソナリティと認知機能低下. 認知心理学会高齢者心理学部会第13回研究会, 3月27日, 東京, 2016.

G. 知的財産権の出願・登録状況

- 1. 特許取得
なし
- 2. 実用新案登録
なし
- 3. その他
なし